

非特異的腰痛の運動療法 [Web動画付] 第2版 病態をフローチャートで鑑別できる

荒木 秀明 著

B5・頁248
定価:5,280円(本体4,800円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05006-7

評者 葉 清規
浜臨整形外科リハビリセンター

著者の荒木秀明先生は、腰痛に対する臨床と研究に取り組まれる理学療法士として、私が尊敬する先生のお一人です。

腰痛に対する理学療法の方法論は数多く紹介されていますが、医療技術として、理学療法はエビデンスに基づいて行われるものであり、エビデンスの臨床応用として、Evidence-Based Practice (利用可能な最良のエビデンス・医療者の専門性・患者の価値観を統合し、最善の医療を行う)という概念が重要となります。エビデンスとは臨床研究です。研究には、研究を実践する立場と、研究結果を解釈(活用)する立場があります。荒木先生はご自身の臨床データを、国際腰痛学会・国際骨盤痛学会や日本腰痛学会で学会発表されるなど研究を実践しています。しかし、それだけではなく、先生の真骨頂は、臨床疑問の解決に結びつく数多くの先行研究の成果を理解して臨床応用する、「研究結果を解釈する立場」を高いレベルで行われているところにあります。『非特異的腰痛の運動療法 第2版』には、そのエッセンスが盛り込まれています。

腰痛は、画像所見から推測する病態と理学所見が一致しないことが多々あります。私自身、臨床において先生が紹介されている骨盤の正中化や、腰痛の原因を探索するフローチャート、それに適した運動療法を参考にしています。第2版では、臨床で遭遇する機会も多い脊椎疾患の腰椎変性側弯症についても取り上げられています。近年、国内でも脊椎後弯変形に対する手術療法や運動療法の研究報告がみられま

す。しかし、高齢者の脊椎疾患においては、純粋な後弯変形だけでなく、後側弯変形を呈する症例も多く、臨床では治療に難渋する場合があります。また、それに対する運動療法のエビデンスも明らかではありません。

本書では、評価のフローチャートに「側屈・回旋動作」が追加されました。臨床では、画像所見上の腰椎変性を改善することは困難と考え、運動療法の対象としていない場合もあるかもしれませんが、そこには運動療法の対象となる病態が潜んでいる可能性もあります。本書を熟読することで、高齢者の腰痛に対する運動療法の治療展開が広がることを確信しました。

また、本書ではエビデンスを基に、病期別の運動療法を系統的に解説されています。特に運動療法の必要性が明らかとなっていない急性期・亜急性期の腰痛についても、先行研究のエビデンスを基にわかりやすく解説されており、腰痛に対する治療経験が豊富な方々だけではなく、治療経験が少ない方々にも理解しやすい内容となっています。ぜひ、これらの治療展開に関する臨床データを蓄積し、腰痛に対する運動療法の新たなエビデンスの構築につなげていただきたいです。

本書は、腰痛に対する運動療法について、経験則や基礎医学的観点だけではなく、臨床研究というエビデンスに基づいて運動療法を実践するに当たり参考になる書籍です。腰痛に対する臨床・研究にかかわっている方、これから学びたいと考えている方は、ぜひ一度手に取ってみてください。

腰痛に対する「エビデンスに基づいた運動療法」を 実践するための一冊



【第9回】癌(がん)

第6回の「麻酔」で紹介した華岡青洲の世界に先駆けての全身麻酔は乳癌に対してであった(1804年)。最初の患者は妻だったというのは誤解であるものの、その摘出術は患者、術者、術名、時期、場所が特定され、信拠すべき記録が残されている点が特筆される〔松木明知:日医史誌,2017;63(4):371-88〕。

さてそのがんは「癌」と書かれていたのか? 青洲とその弟子による記録はいろいろ伝えられているが、最初の記録者とその後の写本によって、「岩」「巖」「岳」「癌」とさまざまな漢字が使われている。「癌」の用例は国内では1666年の『合類醫學入門』(八尾玄長)における「己に潰て深く陥り岩の如きを癌と為す」が最初のものであり(『日本国語大辞典』)、「癌」はそれまでに国内で造られた国字と思われることが多かったようだ。中国・清の康熙帝の勅撰によって編纂された字書の集大成として有名な『康熙字典』(1716)にも採用されていないからである。しかし、漢字としては中国の南宋時代に用いられていた『仁齋直指方』(1264)とされる。ヤマイダレの中の「岳」は岩山を指す字であり、癌がごつごつしていることを表している。中国のほうが古いと言っても、中国でも実は「乳岩」や「乳巖」と書くことがほとんどであり、日本において西洋医学のCancerの訳語として「癌」が決定的に使用されるようになり〔大槻玄沢ら翻訳の『瘍医新書』(1825)〕、その意味での「癌」の用法が100年ほど遅れて中国にも逆輸出されていった〔『新華外来詞詞典』によると『新字典』(1913)〕。

「癌」はいろいろな組織などの中で大きな障害になっており、比喩的表現にも用いられる。『日本国語大辞典』によると、その最初の例は久保田万太郎による『春泥』(1928)の「従来新派の癌とされてきた諸種の情実だの因襲だのを根本から芟除する」である。

最後に、「癌」と「がん」の使い分けに一言。この問題は「癌」が当用漢字にならなかったことから始まったようだが、現在に至るも悪性腫瘍関連学会の中でもいろいろな定義の違いがあり、混乱を極めていように見える。固形癌こそ「癌」の字義にかなうとしても、耳で聞いただけでは区別がつかないのはいかがでしょうか。



福武 敏夫
龜田メディカルセンター 脳神経内科部長

●お願い—読者の皆様へ

弊紙へのお問い合わせ等は、お手数ですが直接下記担当者までご連絡ください。

記事内容に関する件

☎(03)3817-5694・5695/FAX(03)3815-7850 「週刊医学界新聞」編集室へ

送付先(住所・所属・宛名)変更および中止

FAX(03)3815-6330 医学書院出版総務課へ

書籍のお問い合わせ・ご注文

お問い合わせは☎(03)3817-5650/FAX(03)3815-7804 医学書院販売・PR部へ
ご注文につきましては、最寄りの医学書院特約店ほか医書取扱店にて承っております。

最新の医療情報が安心感と即戦力につながる

今日の治療指針 2024年版



総編集 福井次夫・高木 誠・小室一成

- 見出し「帰してはいけない患者」を新たに追加
- 処方例が一般名・商品名併記に。診療のコツやEvidenceも紹介
- 診断の決め手・治療のポイント・疾患の最新動向もわかりやすく



詳しくはこちらから

●ポケット判(B6) 頁2224 2024年 定価17,050円(本体15,500円+税10%) [ISBN978-4-260-05343-3]
●デスク判(B5) 頁2224 2024年 定価22,000円(本体20,000円+税10%) [ISBN978-4-260-05342-6]

治療薬マニュアル 2024



監修 矢崎義雄
編集 北原光夫・上野文昭・越前宏俊

- 後発医薬品や2023年掲載の新薬を含む、ほぼすべての医療用医薬品を収録
- 公式サイトでの新薬情報の掲載、Web電子版での薬価改定対応など、書籍発行後の情報提供も充実



詳しくはこちらから

●B6 頁2800 2024年 定価5,610円(本体5,100円+税10%) [ISBN978-4-260-05359-4]

いずれも高機能なWeb電子版付。2冊併用なら、電子版が連携しグレードアップ!

●約1200疾患項目、薬剤約2万品目の情報から瞬時に検索 ●[処方例→薬剤情報][薬剤情報→関連疾患]がワンクリックで参照できる

スマホ・PCが“総合診療データベース”に!



医学書院